

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-023	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Combined role of childhood maltreatment, family history, and gender in the risk for alcohol dependence アルコール依存症の危険因子としての幼少時の虐待、家族歴、性別の関係について		
執筆者		
Fenton MC, Geier T, Keyes K, Skodol AE, Grant BF, Hasin DS		
掲載誌		
Psychol Med. 2012 Aug 10:1-13		
キーワード		
アルコール依存、アルコール乱用、幼少児の虐待、疫学		
要 旨		
目的： 幼少児の虐待経験と成人後のアルコール依存症の関係に関する研究は、いくつかの種類 の虐待が同時に発生し、さらに心的外傷が絡まるため、系統的に検討されておらず、性別、 虐待の種類毎に親のアルコール問題がどのように相乗的に成人後のアルコール依存症に作 用するか検討されていなかった。これらの関係をアメリカを代表するデータを用いて検証 した。		
方法： アメリカを代表する調査を用い 27, 712 名の成人に面接調査を行った。		
結果： 虐待経験の種類と親のアルコール問題との相互作用による寄与割合を計算すると、男女 全体では身体的虐待、女性では性的虐待、精神的ネグレクトに有意に相乗的關係がみられ、 親のアルコール問題と虐待経験の両方を有する場合の成人後のアルコール依存症の危険度 は、これらの要因を単独で足し合わせた危険度より有意に高かった。		
結論： 幼少時の虐待は成人後のアルコール依存症の独立した危険因子であった。身体的虐待経 験から成人後のアルコール依存症を引き起こす要因には親のアルコール問題が関与してい る可能性があり、特に女性では性的虐待経験と精神的ネグレクト経験者には親のアルコー ル問題が関与している可能性があり、親のアルコール問題の相乗的な効果の重要性を明ら かにした。本研究は、特に家族歴を有する者に対して早期発見と予防が重要であることを 明らかにし、家族環境の調査や介入手段に役立つであろう。具体的には、子どもの虐待を 防ぐ政策は、アルコール問題に起因する要因を含む子どもを取り巻く環境全体にわたり虐 待による長期の負の連鎖に対して有効であると考えられる。		